

# 自己改革 JA紀南の挑戦



親子で梅もぎ体験をして農業の大切さを学ぶ参加者  
(平成30年6月19日、田辺市中三栖で)

「農業体験学校」である「おやこ・で・あぐりすくーる」を開いており、今年5月の開校で9小学校1〜3年生までの児童と保護者を対象に、田植えや稲刈り、料理講座など半年間にわたり体験してもらっている。

地域住民・次世代層の農業への理解促進を図り、組合員や地域住民の親子に「いのち」「食べ物」「農業」の大切さをさまざまな体験を通じて直接伝える良い機会になっている。

第8期では田辺から串本までの管内全域から19家族、親子49人が参加し、5月から10月まで計6回の講座を開催。梅もぎ体験

や夏野菜のカレー作り、10月の最終講座では5月に田植えをして9月に収穫した「自分たちで育てた」もち米を使って餅つきを行った。

体験カリキュラムでは、日頃の生活ではなかなかふれあうことがない内容を取り入れ、講座ごとに、児童に体験の様子を絵日記に書いてもらっている。そこには「田んぼが気持ちよかった。またやってみたい」と保護者の感想文には「こんなに手間をかけてお米ができていくことを知った」「梅畑にネットがはられ工夫されていた」などの声があり、次世代に農業を実感してもらえる機会となつて

「料理教室」では、JA紀南と地域の栄養士グループ「有責任事業組合 栄養サポート紀南（大更元子代表）」と共同で、子どものための料理教室「なかよしクッキング」を開催し、今年度で4年目になる。

対象は小学1・2年生の児童。5月から毎月、全11回の講座を通して食農について学んでいる。

日本の四季や季節の行事にあわせ、旬の野菜を取り入れた料理を作り、子どもの成長に欠かせない食の大切さを伝えていく。

「学校支援型」の教育は、学校が授業の一環として取り組んでいる農業体験にJA紀南青年部が協力し、小学生に「タケノコ堀り」や「田植え」「稲刈り」の農業体験支援を行っている。部員が手本を見せ、児童に手ほどきする。小学生の頃に経験したことは大人になっても忘れず、このような農業体験は食育につながっている。

子どもが外で遊ぶなくなつたと言われて久しいが、改めて体験を通じて農業や食べ物の大切さを伝える機会を提供することが、JAの大きな使命の一つであるといえる。

## 農業に目をむけてもらおう 食べ物の大切さを伝える

近年、紀南地域を取り巻く農業環境は大きく変化してきた。中でも「中核的な組合員」が農業からリタイアする時代を迎え、次世代への農業経営のスムーズな継承等が大きな課題となっている。こうした情勢のもと、非農家を含めた地域住民の方に農業に目を向けてもらおう大きなきっかけになるのが「食農教育」の展開だ。JA紀南の食農教育は大別して2つの展開方向がある。1つめは年間継続型の「農業体験学校」と「料理教室」。2つめは「学校支援型」の教育だ。



田植えを体験する小学生（平成30年5月24日、上富田町岡で）